

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770401651		
法人名	株式会社 愛心会		
事業所名	ほっとファミリーぞうの目2		
所在地	〒970-0101 福島県いわき市平下神谷字後原47-1		
自己評価作成日	平成21年10月 1日	評価結果市町村受理日	平成21年12月21日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福島県社会福祉協議会
所在地	〒960-8141 福島県福島市渡利字七社宮111番地
訪問調査日	平成21年10月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

有料老人ホームや通所介護など同一敷地内に事業所が隣接しているため、地域の小学校や幼稚園などの催しものへの参加も多く、利用者の五感を刺激する機会も多い。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者も職員もゆったりとした雰囲気の中で過ごしている。食事も、会話を楽しみながらゆっくり行われている。
全職員でサービスの質の向上に向けて常に話し合う時間を設け、利用者一人ひとりの把握や対応に前向きに取り組んでいる。
地域との関係が良好で、理髪店やスーパーの支援を受けたり、保育園、小学校などの交流も盛んである。また、敷地内にある同じ経営母体の施設や、他地域の施設との交流も多く、積極的な外出支援が行われている。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
				1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
				1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
				1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者は常に理念に基づき、職員が、具体的にどのように行動すればよいかを話している。朝の申し送り時に具体的にどのように考え実行するかを話している。	理念は、職員で作り、玄関に掲示するとともに、朝の申し送り時や月1回のミーティング時に確認し、理念に沿った実践が行われているか常に話し合っている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として近所づきあいや地元の活動、地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。	町内会への参加をしている。地域のお祭りや運動会などに参加し地域の中に溶け込むようにしている。また、買い物等はできるだけ地域の店舗を利用し地域で暮らす住民として考えている。	町内会のゴミ拾いや草刈などに積極的に参加している。保育園児や小学生が事業所を訪問したり、利用者が行事に参加するなどの交流がある。買物は、近所のスーパーを利用し、散髪は、近所の理髪店の協力を得るなどの交流もある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の中で3ヶ月に1回くらいの割合で事業所周辺のゴミ拾い・草むしりなどを定期的におこなっている		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている。	運営推進会議で客観的に意見を頂くことで利用者の支援・サービスの向上につなげています。ただし、定期的な開催が出来ていない。	運営推進会議は、民生委員、地域住民、家族、地域包括支援センター職員、管理者、ケアマネジャーなどが参加し、積極的な意見や地域の情報を得ている。しかし、定期的な会議開催には至っていない。	定期的に運営推進会議を開催することにより、会議メンバーからの意見をさらなるサービスの向上に活かせるよう期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何かあれば、市の担当窓口相談している。	運営推進会議のメンバーに地域包括支援センター職員に参加してもらうなど協力関係を築いている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除マニュアルを基本に全ての職員が利用者本位を意識して日々の業務に取り組んでいる。最近では、利用者が自由に玄関先に出られても対応可能なように音センサーを設置するなど工夫している。	身体拘束排除マニュアルの作成や研修に参加し全職員が理解に努めている。玄関には、身体拘束排除宣言を掲示し、言葉での拘束にも十分気を付けている。玄関の施錠は行わず、音センサーを設置したり、職員一人に対応が困難な場合は、昼夜問わず管理者が対応するなど拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	「虐待」についても福祉施設においてどのようなことがあるのかを事例集などを参照して、全ての職員が事業所内で行なわないための注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は権利擁護を学ぶ機会を確保している。特に、認知症高齢者の権利については外部の専門家の講師による勉強会を持ち、常に心がけられるようにしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分な説明を行い、金銭面・生活面の不安や疑問点についても契約時外でも理解納得できるまで利用者及び家族と話をしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御利用者様の苦情や不満は「要望」「希望」として受け止めている。言葉に表すことのできない場合は、日ごろの表情・行動から推察し、業務運営に反映するようにしている。御家族の意見も同様に面会時等に時間を頂き、聞き取りし反映している。	家族の面会時や家族も参加する催しなどで、常に管理者や職員に意見や要望が言いやすい機会を設けている。意見や要望があった場合は、その都度ミーティングなどで話し合い、運営に反映させている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や管理についての職員の声に耳を傾け、活かしていくことを心がけ、職員の働く意欲の向上や質の確保を図っている。	管理者及びリーダーはショートカンファレンスを毎月行い職員の意見を聞く機会を確保している。	管理者は、常日頃から職員の意見を大切にしており、毎朝のミーティングや毎月1回の会議で意見を出し合い職員の意欲の向上や質の確保を図っている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員ひとりひとりがより良い職場環境で働けるように、問題があればその日のうちに対応している。職員も代表者を尊敬している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能なかぎり内外の研修に参加できるように管理者及びリーダーが常に情報収集している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に参加し、職員に定期的研修や勉強会の参加を促し、地域の同業者との接点や交流の機会を確保しながら認知症高齢者介護のサービスの確保に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初の面談等でじっくりと本人の意向並びに家族の心配などを時間をかけて傾聴し、1度でだめなら2度3度と諦めず信頼関係を築けるよう努めています		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との信頼関係も時間をかけてじっくりと結んでいくよう努めています。全職員が同じレベルで御家族と接することが最大の目標です。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応がとて重要であり、良い点・問題点を職員全員でカンファレンスし、早い段階で改善すべき点は修正し、サービスへつなげる。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症になっても残された機能はたくさんある。知恵や経験を活かした生活は職員にとっても学びとなり、毎日新たな発見を楽しみ寄り添う関係を築いている		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との交流の機会として毎月の定期受診や誕生会を利用し、共に御本人様を支える関係づくりを築いている。また、折にふれ、家族に呼びかけている		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の行きたいところ、馴染みの場所に行けるよう、家族には協力を呼びかけ、また体力的に難しい場合は写真を用意するなど支援している。	アセスメントや家族、利用者との会話により情報を把握し、自宅や墓参り、喫茶店などの馴染みの場所に外出するなどの関係継続の支援を行っている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事時やお茶の時には必ず職員がそばにあり、利用者同士が自然に会話を持てるようにしている。また、食事作りではお互いに協力できるようにできる方同士や仲の良い利用者同士を誘い合うように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了し、他事業所等へ移動してもあらゆる側面から相談・支援できるよう退所時に家族としっかり話し合いをしている。		
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、関係者で本人の視点に立って意見を出し合い、話し合っていく取組を心がけている。	入居者の方一人ひとりがどのような暮らしをしたいのか、どのような思いをしているのかをお茶や食事時にさりげなく意向を確認している。その時々々の気持ちを確認しながら利用者本位の暮らしができるように取り組んでいる。	アセスメントや家族、利用者との会話の中で、本人の思いや意向を把握し、朝の申し送りや毎月の会議で全職員で理解できるよう取り組んでいる。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らし方の全てが分かるわけではないが、食事の取り方、洋服の好み、仕事、環境などからも把握に努めている。家族から情報を得る事はもちろん行なっている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が担当の利用者を持ち、状態の把握に努めている。また、生活のリズムや、ADL、認知症の進行など、様々な視点から捉え総合的に把握するように努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、関係者(医療機関を含む)とは本人がよりよく生活していくための課題を家族等を含めて話し合いを持っている。職員も利用者のカンファレンスを担当を持ちモニタリングにつなげている。	職員1人で利用者2人を担当しているが、毎朝のミーティングや毎月の会議の際には、担当以外の利用者の意見を出し合っている。その他、その都度ノートやメモなどを利用してケアマネジャーへ伝え介護計画を立てている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報を共有するために必要な事、気づきを記録し、それを基に介護計画の見直しをスムーズに行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他の事業所が隣接しているため、ひとりひとりの利用者にあったサービス体制を長期的にわたり確保できる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの理美容店の協力のもと利用者お一人でも安心して散髪ができ、終わった後もお茶を飲みながら世間話をするができる。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が信頼できるかかりつけ医に受診できるように支援している。また、職員に看護師があり、本人の状態等を家族に話したり、医師に伝えたりして適切な医療を受けられるようにしている。	基本的に、かかりつけ医の継続を利用者と家族にお願いしており、受診は家族に協力していただいている。家族の協力が難しい時は、職員が受診に付き添っている。その他、協力病院の医師の往診が月2回行われている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員の中に正看護師がいる為、それぞれの利用者のかかりつけ医との連携もうまくとれ医療面に関して統一が図られている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医・協力病院・ホーム内看護師の連携によりスムーズに入院・退院がすすめられるよう支援する		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族には入所時点から同法人内に有料老人ホームが隣設している為、ぞうの目2での受け入れが困難になっても法人全体で支援していただける事を説明している。	事業所の方針は、重度化や終末期は同法人の有料老人ホームを利用させていただくことになっており、入所時に利用者と家族へも理解していただいている。職員も方針を理解しており、どこまで対応できるかを話し合いながらケアに取り組んでいる。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成準備し、全職員に周知徹底を図っている		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成準備し、全職員に周知徹底を図っている	災害時のマニュアルを作成し全職員が理解しており、水と食料は準備されている。経営母体の施設が同敷地内にあるため、全体での避難訓練を年2回実施している。しかし、グループホーム単独での訓練や地域との協力体制は築かれていない。	運営推進会議などを通じて地域や地域の消防団の協力を得られるよう取り組んでほしい。また、グループホーム単独での避難訓練を検討してほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライドが尊重されるように言葉かけに注意している。個人情報の取り扱いにも注意を払い、守秘義務を果たすように注意している。	利用者の誇りやプライバシーを損ねることのないよう、言葉かけに十分気をつけ、問題があれば職員同士その都度注意しあったり、管理者は介護現場に入り確認している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自分の意思を表出できるように分かりやすい言葉を使い、説明してる。また、着替えや入浴の場面など日常のさりげないことから自己決定しながら暮らせるように支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者は自分のペースがあり、生活のリズムも持っている。利用者本人がどのように過ごしたいかを確認し、職員の都合を優先しないように心がけながら支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者本人は好みによって化粧をし、理美容が身体状況が可能な限り理美容店の協力を得ながら、おしゃれが楽しめるようにしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている。	利用者と職員は力を合わせ協力しながら準備や後片付けをしている。	利用者は、材料を切ったり味見をしたりと職員と一緒に調理を行い、利用者と職員は楽しみながらゆっくりと食事をしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや食べる量は職員全員が利用者の体重や運動量や習慣を考慮し支援している。水分量は尿の状態も観察しながら毎日確認し脱水を起こさないように配慮している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを確実に利用者一人ひとりの状態に合わせて行っている。また、適宜口腔内に異常がないか観察も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員全員でこまめにトイレを促したり、トイレの場所を分かりやすくするため貼紙等を活用している。	トイレの場所がわかりやすいように貼紙をしたり、記録を付け、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間を見計らいながら声掛け、見守りを行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便は、看護師を中心に毎日確認している。便秘ぎみの御利用者様がいれば早急に服薬等を利用して対応している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は一人ひとりの好みが違うので、それに合った入浴を支援しています。	入浴は、毎日の方もいれば週2～3回の方もいるなど、回数や時間帯は、利用者の希望に沿って支援が行われている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全員ではないが、午睡を設けている。夜間は眠れない利用者と1対1で落ち着くまで会話をするなど工夫もしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の受診状況が一目で理解できるよう、受診記録を作成し、周知徹底を図っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	裁縫・梅干し作り・干し柿など四季折々のものを手作りしている。利用者も目を輝かせて作業に取り組みます。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物・散歩・ドライブ・外食などで外出支援を行っているが、最近のインフルエンザ問題ですこし控えている。	利用者は、日常的に買物や散歩、近所の方の家にお茶飲みに出かけたり、季節ごとには、花見や紅葉狩りなどの外出をしている。外食は2ヶ月に1回程度行われ、年1回は小旅行に出かけるなど、利用者の希望に合わせた外出支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には大事なものということでホーム金庫で預かり、御本人様より依頼あればすぐに取り出しできるように支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の受信が多いが、遠方の家族からの電話などのやり取りを随時支援している		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間にカーテンがあり冬には光の調節が難しかったが、ロールスクリーンに変え採光に調節が可能になった。また、外の状態がいつも確認でき季節感がさらに味わえるようになった。	居間は、日当たりが良くソファやテレビが置かれ、くつろぎやすい環境になっており、利用者は日中のほとんどを居間で過ごしている。他の共有空間も清潔な環境となっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間が狭いが、ダイニングテーブルに気の合った仲間が集まる事もあり、思い思いに過せるように配慮している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている。	大部分の居室は本人の好みを活かし(草花や写真を飾る、思い出の品を持ち込むなど)心地良く過せるように工夫している。	利用者と家族が好みに室内を装飾したり、家具などの馴染みの品が持ち込まれている。希望によっては畳を設置するなど、本人にとって居心地良い環境になっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部には手すりや居室センサーが設置されており、転倒防止に配慮し、安心して自立した暮らしが送れるように配慮している。トイレにも貼り紙をするなどの工夫をしている。		